

[例題①] 次の文章は、これまで国際社会において合意された気候変動に関する三つの枠組みについて述べた文章である。括弧内に該当する国際的枠組みの名称の組み合わせとして、最も適切なものを一つ選びなさい。

(A) : 大気中の温室効果ガス(CO₂, メタンなど)の濃度を気候体系に危害を及ぼさない水準で安定化させることを目的とした条約。1992年5月採択、1994年3月発効(締約国数:197か国・地域的な経済統合のための機関)。

京都議定書:1997年12月採択、2005年2月発効(締約国数:192か国・地域的な経済統合のための機関)。米国は、署名はしたものの未締結。

(B) : 2015年12月のCOP21において、史上初めて、全ての国が参加する枠組みとして採択。2016年11月発効。

1. A.国連気候変動枠組条約、B.パリ協定
2. A.パリ協定、B.国連気候変動枠組条約
3. A.コペンハーゲン条約、B.パリ協定
4. A.国連気候変動枠組条約、B.東京宣言

正解. 1

[例題②] 「ミレニアム開発目標(MDGs)」と「持続可能な開発目標(SDGs)」に関する次の記述のうち、空欄に当てはまる語句として最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」とは、2001年に採択された「ミレニアム開発目標(MDGs)」の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際的な目標である。

MDGsでは主な対象国を(A)としていたのに対し、SDGsではその対象国を開発途上国、先進国を含むすべての国とした。また、取り組み主体は、MDGsでは各国政府や国際連合が中心だったのに対し、SDGsでは(B)。

- 1.A.開発途上国、B.各国政府のみならず、企業、民間団体や個人まで、様々なアクターが含まれている
- 2.A.新興国、B.民間企業が中心となっている
- 3.A.先進国、B.各国政府のみならず、地方自治体が含まれている
- 4.A.最貧国、B.個々の市民となっている

正解. 1